

長崎県・五島列島

くらしの学校「えん」

しま留学

令和8年度（10期生）募集要項



主催：くらしの学校「えん」

〒857-4601 長崎県南松浦郡新上五島町小串郷 40 番地

電話・FAX 0959-55-2707

Eメール：kurashi_en@hotmail.com

HP アドレス：salt99.com

長崎港・佐世保港から
高速船で1時間40分
フェリーで2時間30分
島の港から「えん」まで車で30分です

くらしの学校「えん」の想い

くらしの学校「えん」は、日本の西端・五島列島の中通島（なかどおりじま）にあります。日の出をのぞむ大浦という集落で、自給自足の挑戦と実践をしている一軒の民家です。

学校といっても、「しっかりとした施設に指導員が何人もいる」というものではなく、製塩業を生活の基盤としながら、訪れる客人達に自然の中での暮らしを体験してもらうことをベースとして、不定期・非営利に、田舎暮らしの体験学習や環境教育活動を提供している一個人です。

そもそも大浦という集落は、くらしの学校「えん」代表の小野 敬が '98 年にこの地に移住するまで、8年間無人の集落でした。廃村の一角の荒屋（あばらや）に湧水を引き、橋をかけ、道を作るところからスタートし、今も様々な物・事を手作りしています。それら住環境をはじめ、田んぼや畑・家畜の飼育といった食環境も自らの手で賄おうと目指しているのが、くらしの学校「えん」なのです。

2001 年に長期自然体験「しまキャンプ（14 泊）」を実施するにあたり、活動主体を「くらしの学校『えん』」と名付けました。日々の暮らしの中にこそ「本当に大切な学びがある」という信念のもと、自然に則した我が家の暮らしそのものを、学びの機会として提供し、一緒に体験し分かち合う…。

「しまキャンプ」でその想いの一端は担えていましたが、キャンプ中は「非日常の世界」であって、我が家の「体験」はできても、暮らしそのものではありません。季節の変化を感じながら、四季を通してでしか感じられないものや、日々 当たり前過ぎていく時間の中で、ふとした瞬間に自ら気づく大切なこと、感覚…。それこそが、現代の子ども達に不足している体験であり、社会に出た後や困難に直面した時に自らを支える「心の根っこ」になるものではないかと思うのです。

普段何気なく与えられている生活環境の一つひとつを自分の手でつくり上げることで、その大切さに気づき、感謝する。自分ひとりでは出来ないことを仲間と助け合うことで克服し、協調性・社会性を育む。日々の暮らしや自然の中に、教材も教師もたくさんいます。自然に即した暮らしの中には、学びの機会や先人の知恵が詰まっているのです。これらを「大人に教えられる」のではなく、子ども達が自ら気づいていくきっかけ・機会を用意する。そして、人や自然の縁に感謝しながら、心に太い根っこを育てる手伝いをする…。これが、くらしの学校「えん」の基本理念であり、しま留学で子ども達に手渡したい「おみやげ」です。



※ しまキャンプ ... 「自分のことは自分でする」をコンセプトに、春（4~5泊）・夏（6~14泊）・秋（2泊）の年3回、計50回実施し、島外から800名以上の子ども達と、300名以上のスタッフが参加した「えん」主催キャンプ。2020年で終了。

令和 8 年度 ぐらしの学校「えん」 しま留学 留学生募集要項

1 目的

この事業は、留学を希望する児童を主催者が家族の一員として受け入れ、豊かな自然体験、環境学習、農漁業体験を一年を通して生活の中で行うことで、心身共に健康で力強い社会人を育成することを目的とします。

2 場所

長崎県南松浦郡新上五島町小串郷40番地 ぐらしの学校「えん」 小野 敬
及び 新上五島町立 北魚目小学校

3 留学期間と定員

- (1) 留学の期間は、原則として4月から翌年3月までの1年間とします。但し、継続を希望する場合は双方協議の上、契約を更新することができます。
- (2) 定員は3名程度とし、定員に満たない場合でも、協議の上、実施します。

4 応募条件

- (1) 保護者・本人がこの事業の趣旨をよく理解し、保護者・本人共に留学を希望していること
- (2) 新上五島町立北魚目小学校に通うこと
- (3) 小学校4年生から6年生までの男女
- (4) 団体(集団)生活・友達とのコミュニケーションを円滑に行うことができる児童。
- (5) 「自分のことは自分です」「島での暮らしを楽しむ」という前向きな希望と意思のある児童

5 留学に関わる費用

- (1) 契約時納入金(入学金)として、一人当たり10万円
(約27,000円の障害・賠償保険や諸手続き、開始時諸経費等をここから支払っています。2年目以降は半額)。
- (2) 月額委託料として、一人当たり8万円。(食費等ほぼすべてが含まれます)。
- (3) 学校の諸経費(教材費や給食費等)や個人活動費は実親負担です。

6 留学までの流れ

- 1 事前体験 しま留学参加の検討にあたり、現地へ2日間程度で体験・見学にお越しくください(体験見学科 6,000円/1泊1人)。
- 2 留学申込書の提出 申込期間:7月1日から1月末まで
(但し、定員になり次第締め切る場合があります)
- 3 第一次考査 体験や見学等を経て、留学の意思を固めていただいた上で、作文等による書類考査を行います。
事務局が必要と認めた場合のみ、親子面接による二次考査を現地にて行う場合があります(体験見学科 6,000円)。

- 4 留学決定 留学決定した旨をお電話にてお知らせし、必要書類を郵送いたします。（体験終了後～2月）
- 5 契約書、入学金の振込（2月末までに）、
転出入届け等の提出（3月末～4月初旬）
- 6 転居・入学準備（4月初旬）

7 解約

次の事項に該当する場合は、解約することがあります。

- (1) 留学生の問題行動等により、今後の指導が困難であると判断された時
- (2) 委託料の不納及び契約違反が生じた時
- (3) 家庭の事情などにより、解約希望が生じた時
- (4) 申込書や契約書等に虚偽がある時

くらしの学校「えん」の暦

- | | |
|-----|--|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・春の磯遊び（わかめ、ひじき採り） ・麦の雑草取り ・ノビルやタラの芽、ツワブキなど 春の山菜とり |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・北魚目小学校運動会 ・麦刈り ・桑の実や野イチゴのジャム作り ・ドクダミ、ビワ茶づくり |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・田植え ・梅干しの仕込み ・ビオトープの睡蓮の花が見頃 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・梅の土用干し ・地元の夏祭りに参加 ・ブルーベリーの収穫 ・夏野菜の収穫 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・紫蘇ジュースづくり |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターン（大学生）が複数名 滞在 ・アゴ（トビウオ）の加工 ・椿の実収穫 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・椿油絞り ・稲刈り ・ツワブキ花満開 ・ハブ茶作り ・地元の秋祭りに参加 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・麦の種まき |

4月 春の磯遊び



5月 麦畑の雑草取り



段々畑と
鯉のぼり

- 12月 ・ 麦ふみ
- ・ 麦茶づくり
- ・ 味噌と醤油づくり
- ・ 餅つき大会
- 1月 ・ 段々畑の麦ふみ
- 2月 ・ 夏みかん、椿の花びらジャム作り
- ・ カノープス（星空）観察
- 3月 ・ 春の七草
- ・ つわぶき収穫
- ・ 菜の花満開

年間を通して、炭焼きやジビエ（猪・鹿）の燻製品、季節の野菜やハーブを育てています。これらの活動を地元の子ども達を誘って一緒に実施しています。

～山村留学の一日のイメージ～

あくまでも参考です。子どもたちの様子や学校・地域の行事等で日々変動します。

《 小学生の平日 》

- 6：30 起床。布団を畳み配膳の手伝い
- 6：40 朝食
- 7：10 登校（途中まで車。約 5 分。
 そこから徒歩で 20 分）
- 16：30 帰宅。洗濯物を畳んで学校の宿題
- 18：30 風呂焚き当番や夕食当番
- 19：00 夕食。片づけ
- 20：00 お風呂など自由時間
- 21：00 消灯・就寝

《 金曜日 》

- 6：30 起床。布団を畳んで配膳の手伝い
- 6：40 朝食。登校
- 16：30 帰宅。学校の宿題
- 17：00 夕食づくり当番。野菜の収穫
- 19：00 夕食。片づけ
- 20：00 たき火タイム（「みんなの気持ちを一つにしてくれる」「素直な気持ちになれる」という「たき火の力」を借りながら、1週間の振り返りや話し合い）
- 21：00 お風呂や宿題など自由時間
- 22：00 消灯・就寝



段々畑の麦刈り



田植え前の泥んこ大会



ビオトープ池の睡蓮やホテイアオイの花。
金魚やメダカ等たくさんの淡水生物がいます。



夏の大浦海岸



泳ぎ釣りやモリで突いて

《 土曜日 》

- 7:00 起床。
- 7:30 朝食。片づけ当番
掃除、洗濯、布団干し
- 9:00 動物のお世話
- 9:30 勉強など、各々の課題に取り組む
- 12:00 昼食。明日の予定の話し合い
- 13:30 自活タイム ...農作業や釣り、食料の加工
品作りなどをする時間。竿や仕掛けを作ったり、
農林業や加工品作りの学習等も行う。
- 17:30 夕食づくり。お風呂焚き
- 18:30 夕食
- 20:00 お風呂など自由時間
- 21:00 消灯・就寝

《 日曜日 》

- 7:00 起床。
- 7:30 朝食づくり
掃除、洗濯、布団干し
- 9:00 動物のお世話
- 9:30 自由時間
- 11:00 昼食づくり
- 12:00 昼食
- 13:30 みんなの活動... スポーツや釣りなど、
前日に話し合った「みんながしたいこと」
を、地元の子ども達も誘って行く。
- 18:30 夕食
- 19:30 お風呂・勉強など自由時間
- 21:00 消灯・就寝

休日はお弁当を持って朝から出かけたり、のんびりお菓子作りをしたり、好きな動物のお世話をずーっとしたり、読書や工作をしたり...。地域の行事等にも積極的に参加します。

「えん」の食事は豪華ではありませんが、質素で、ある意味「贅沢」といえます。いただきものの鮮魚や自家製の有機・無農薬野菜をはじめ、可能な限りの保存食・加工品を昔ながらの製法で手作りし、安全で健康的な食生活を送っています。



2014/10/04

10月 稲刈り

椿油しぼり



2012/10/07

ほぼ毎晩、薪でお風呂を焚きます。
羽釜でご飯を炊くことも。



2017/04/1



11月 段々畑
で麦の種まき



米麴づくり



秋の学習発表会。
大漁旗のハッピーを羽織って。



炭焼き



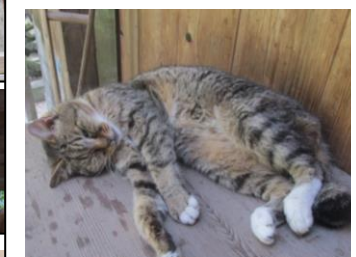
2025年現在、
ヤギ4匹、鶏35羽、イヌ、金魚、
メダカ、カメ、ヘビがいます。



絶景！ツリーハウス



石窯ピザ



ジビエの燻製づくり



北魚目小の全景。
海を見下ろす高台にあります。



令和7年度の北小の全校生徒は23名。代表・小野の長男は福岡県内の大学1年生です。



教室からの風景は
西海国立公園の海



北小から小串を望んで



上五島病院には「えん」から車で25分。内科・外科、小児科など15科を要す総合病院で、入院施設もあります。小学校から徒歩5分には町立診療所（内科・歯科）もあります。自然豊かで事件や事故の少ない島の時間はゆったりと流れ、安全・安心の暮らしです。



「えん」の遠景

上五島には佐世保、長崎、博多から船が出ています。しまの港から「えん」まで車で30分ほどです。

小野 敬（おの たかし）代表者 略歴

1972年（昭和47年）横浜市生まれ。横浜市立洋光台第一小・中学校、神奈川県立氷取沢高校、大東文化大学外国語学部卒。小・中学校は野球、高校はバスケットボール部に所属。大学在学中に北米・南米の旅や、北海道を徒歩で一周するなど、山登りや一人旅をはじめ。大学卒業後は東京で1年間のサラリーマン生活の後、自給自足の暮らしを夢見て国内外を旅しながら定住地を探す。1998年11月、五島列島・中通島の大浦という、当時無人の廃村に全財産4万円で移住。橋をかけ、わき水を引くところからのスタート。'99年4月より自然海塩の製造・販売を開始。2001年8月、第1回「しまキャンプ」を主催。2005年、地元・新上五島出身の妻・千鶴と結婚。2007年、妻千鶴が人工透析をしながら長男・太志を出産。2010年、母屋を新築。2015年、長崎の離島では初めて在宅での血液透析を始める。2017年、長崎の離島で初めて「しま留学」の受け入れを開始。 現在に至る。



猪の皮で
自作した太鼓

趣味は物づくりと読書。年間350日以上、約4トンのお塩を作っています。自然に則した自給自足の暮らしぶりは妻のブログ「千鶴がつづる～塩屋の嫁日記～」をご覧ください。

